

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会教育委員会議 (第 3 回)		
事務局 (担当課)		生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
開催日時		令和 6 年 1 2 月 2 3 日 (月) 午後 5 時～午後 7 時		
開催場所		相模原市役所第二別館 5 階 教育委員会室		
出席者	委 員	1 1 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	4 人 (生涯学習課長、外 3 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題 等		1 報告事項 (1) 令和 6 年度神奈川県社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会について (2) 第 6 6 回全国社会教育研究大会茨城大会 (第 5 5 回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会) について (3) 第 5 6 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会第 3 回研究部会について (4) 公民館職員研修「もっと〇〇〇公民館」 2 議題 (1) 第 2 回定例会「今後の研究・調査に向けた意見・情報交換 (ワールドカフェ)」の振り返りまとめについて (神奈川大会との関連性を考慮して) 3 研修 令和 6 年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会動画視聴 4 その他 次回定例会諮問答申資料について		

議 事 の 要 旨

1 報告事項

(1) 令和6年度神奈川県社会教育委員連絡協議会第2回理事会について

(秦野議長)

・令和7年2月4日(火)開催の地区研究会(大磯町会場)の開始時間が午後1時から午後1時30分になった。

・第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会の各部会報告について

総務部会 アトラクションと記念講演はスローサーカスの栗栖良依氏で概ね決定していたが、映像上映の提案を受けたため再度検討する。

運営部会 大会スローガン「社会教育で創る 育む つながる 共生の未来へ」に決定した。

相模原市の質問 事務局案の【4】の表記が変更になった理由を質問した。

県事務局回答 「文化共生を目指す」をスローガンに盛り込んだ。

研究部会 部会として研究主題を「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」に決定した。

シンポジウムのコーディネーターは伊藤真木子県理事があたる旨確認された。

広報部会 大会冊子、報告書、写真、記録等、全体行事における広報作業について担当市町村を決定する。

・アトラクションについて

アトラクションに関する予算については検討の余地があるのではないかと。県下市町村に照会をすることが確認された。

・協賛金について

令和7年度の神奈川大会は協賛金を募る方向で決定した。

今後詳細が示されると思うので、各委員の方に情報提供を行う。

・分科会発表について

ローテーション及び事例発表希望調査を基に決定していく。

ローテーションでは藤沢市と湯河原町であるが、湯河原町は事情があり厳しい旨要望があり、令和8年度以降の地区研究会担当市町村を交換する提案がされた。

(3) 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会第3回研究部会について

(秦野議長)

・シンポジウムのテーマは「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」で決定した。

- ・アドバイザーの候補者に学校関係者が多かったので社会教育に携わる方を加えるよう要望した結果、検討課題となった。
 - ・分科会名及び研究テーマについては、決定事項のとおり第1分科会から第5分科会が決定された。第3分科会、第4分科会について、以前相模原市が（案）として作成した研究テーマのフレーズを要望した。
 - ・大会アピールは宣言しない方向である旨説明がされた。
 - ・会場使用料の残額は、アトラクション出演料等の支出に充てることを承認した。
 - ・分科会会場の前日準備については、閉会行事に参加できないため、受付時間の若干繰り上げ（午前11時頃）を総務部会へ提案した。
 - ・分科会準備の開始は、閉会行事終了後メイン会場で打合せを行い、各会場へ移動する。開始時間は午後5時以降とする。準備時間は30分から1時間程度を想定している。
 - ・第5分科会会場の県民センターの準備は、11月20日（木）の午前に変更することで施設借用等調整することを承認した。なお、準備は、県教育委員会社会教育主事の方が行う方向で調整する
 - ・11月21日（金）の分科会開会時刻を午前10時に変更するよう総務部会へ提案した。
 - ・情報交換会は、中華街での開催を予定している。
 - ・人員割振り表、分科会業務分掌については、前回実績ベースで決定した。
- ※統括責任者及び運営責任者は社会教育委員が任務にあたる。
- ※全体司会、記録は県教育委員会社会教育主事の方が行う方向で調整する。
- ・分科会会場担当市町村（責任者）については次のとおり決定した。
 - 第1分科会 ○葉山町（3人）、三浦市（4人）
 - 第2分科会 ○鎌倉市（4人）、逗子市（3人）
 - 第3分科会 ○平塚市（4人）、寒川町（3人）
 - 第4分科会 ○相模原市（4人）、伊勢原市（3人）
 - 第5分科会 ○横須賀市（4人）、二宮町（3人）
 - ・シンポジウム基調提案、内容について、シンポジウムの概要説明文について、「すべてのひとの可能性を引き出す」、「知恵と力を出し合い」の言葉がほしい旨要望した。
 - ・シンポジウムの概要説明文は、基調提案等が詳細になってきた段階で決定する。
 - ・シンポジスト、基調提案等の候補者の決定については、12月13日（金）に小池県社会教育委員連絡協議会長と打ち合わせをする中で決定する予定である。
 - ・分科会発表市町村等について、川崎市は県外発表、藤沢市は第2分科会、茅ヶ崎市は第4分科会、真鶴町は第5分科会、栃木県は第2分科会である。

(2) 第66回全国社会教育研究大会茨城大会（第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会）について

(秦野議長)

- ・令和6年10月24日から25日の2日間参加した。
- ・石川委員が政令指定都市社会教育委員連絡協議会卒で表彰された。
- ・24日にシンポジウムがシンポジスト3名で開催された。
- ・25日の分科会は第3分科会「若者の主体的活動の促進」に参加し、北海道厚真町の「厚真けん玉クラブ」及び「水戸市サブリーダーズ会」他2団体の事例発表を聞いた。「厚真けん玉クラブ」は人と人のつながり、「水戸市サブリーダーズ会」等は、ボランティア団体が組織され様々な活動をしているという内容です。

(4) 公民館職員研修「もっと〇〇〇公民館」について

(秦野議長)

- ・公民館職員研修についてまとめたものが資料2である。
- ・参加された委員の主な感想など

机上での協議だけでなく、声を聞くという今回の企画は公民館職員の本音を聞けた。

公民館職員の方が多く参加してくれた。ただ、行政主体の研修の色合いもあったので、もう少し開催方法を工夫するともっと本音が聞けたかもしれません。

本音で話してくださった分、社会教育委員は大事にしていく必要がある。

館長代理のマネジメントが大変であることや公民館としての優先順位など非常に苦労されていることがわかりよかった。

職員は人事異動がありある程度の年数で他の部署に異動しなければならない現状に苦慮していることがわかった。

公民館活動の担い手が不足していることや公民館の問題点を率直に話してくれた。

2 議題

(1) 第2回定例会「今後の研究・調査に向けた意見・情報交換（ワールドカフェ）」の振り返りまとめについて（神奈川大会との関連性を考慮して）

(秦野議長)

- ・第2回定例会「今後の研究・調査に向けた意見・情報交換（ワールドカフェ）」について各委員に感想を求めた。

(各社会教育委員)

- ・メンバーになった方々の活動のベースをもとに会話をすることができた。
- ・発達サポート講座の話をした。不登校児童や学校での子供の選択肢が少ないな

ど、多くの課題について話ができた。これからの日本を背負っていくような子どもたちの為にも、居場所づくりや就労支援などが必要なのではないかと思う。

- ・様々な子どもがいて大変な思いをしているということを、大人たちは社会教育として知っていかなければならないし、日本全国に広まって様々な子どもがいても良いということをわかってもらえる日本になれば良いと思っている。
- ・親が子どものことで悩んでいるが、どこに相談して良いのかわからず抱え込んでしまっている。
- ・コミュニティスクールという話が出てきた。この事業は学校だけでなく、地域全体で行っていくべきだと考えた。地域と学校が連携していくことで、学校の役に立つことができ、地域住民の自尊心もたかめていくことができるのではと考える。伝統工芸のようなものだけでなく、もっと枠を広げた取り組みをしないと面白いと思う。様々な年代の人々が関われるものをどう作っていくのか、アイデアを出していくと良いと思ったワールドカフェだった。

(秦野議長)

- ・こども、若者への関心が非常に多く出た。孤立してしまっている子どもや悩んでいる子どもに対して、どのような支援ができるのか。また、その支援をする大人を育てていく必要もある。次の世代を担っていく人材として、相模原を愛して盛り上げていただくためにも、大人が頑張らないといけない。
- ・第56回関東甲信越社会教育研究大会神奈川大会に向けて、各委員の事例を持ち寄った事前学習ノートを作成するのが良いと思うがどうか。

(各社会教育委員)

- ・分科会のテーマが今回決まったが、担当の自治体がどのような話をしてくるかわからないので、現在の相模原市の状況のある程度調べておく必要があると考える。1～5の分科会の情報のある程度持ち寄って委員会に参加していくか、興味の多いものに絞って参加していくかの選択肢がある。
- ・今後情報をシェアしたり事前学習ノートを作成したりしていくうえで、小委員会を開く必要があると思う。
- ・社会教育委員の立場として、大学となにか一緒にできないか相談してみようと思う。
- ・子育て相談広場「はれまえ」と「たんと」、「みどりのおうち」、「ひだまり」の4拠点合同でイベントをしないかと和泉短期大学から依頼があり、イベントをおこなった。子育て広場が間に入ることによって、地域と子供たちが繋がる良いイベントであると思った。

3 研修

令和6年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会動画視聴

4 その他

次回定例会諮問答申資料について

相模原市PTA大会及び相模原市公民館のつどいの案内

以上で、社会教育委員会議第3回定例会を終了します。

秦野議長の挨拶で会議を終了した。

以 上

令和6年度 第3回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	奈良田 久	相模原市立小学校長会		欠席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中村 岳彦	相模原市P T A連絡協議会		出席
4	大久保 宗俊	相模原市公民館連絡協議会	副議長	欠席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	長沢 亜希子	こみかる・きっず相模原		出席
7	若林 由美	一般社団法人 こども家族早期発達支援学会事務局長		出席
8	石川 利江	学識経験者（桜美林大学教授）		出席
9	秦野 玲子	学識経験者（RE Learning代表）	議長	出席
10	本橋 明彦	学識経験者（（学）相模女子大学事務局長 （総務担当理事））		出席
11	小林 政美	学識経験者（特定非営利活動法人男女共同参画 さがみはら 副代表理事）		出席
12	高橋 修一	公募		出席
13	渡邊 健一	公募		出席
14	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク		欠席